



環境経営レポート

2023年度(74期)



(2023年3月～2024年2月)

株式会社三和鋌螺製作所

作成日:2024年10月21日



JQA-2388



目 次

1.	当社の概要と認証・登録範囲	3
2.	実施体制の組織図	4
3.	経営理念・環境経営方針・環境経営目標	5
4.	環境経営目標とその実績	6～10
5.	環境関連法規等の遵守状況	11
6.	当社に於けるEA21関連活動について	11～13
7.	代表者による全体評価と見直し・指示の結果	14

1. 当社の概要と認証・登録範囲

事業内容: 認証登録の範囲

各種圧造・切削・特殊ねじの受注生産、長尺ボルト、Uボルトの製造及び販売

	単位	2021年 (72期)	2022年 (73期)	2023年 (74期)
主要製品生産量 (ねじ・金属パーツ)	t	3,804	4,467	4,085
売上高	億円	20.47	24.29	27.02
従業員	人	74 (内、派遣3名含)	77 (内、派遣4名含)	77 (内、派遣4名含)
床面積 (本社・工場 総面積)	m ²	6,178	6,178	6,178

期間: 毎年3月～2月

株式会社 三和鋳螺製作所

代表者名: 代表取締役会長 榎本 隆之

代表取締役社長 榎本 宏志

環境管理責任者: 取締役 総務部長 榎本 理

所在地: 認証・登録の対象組織

本社 〒578-0982 大阪府東大阪市吉田本町2丁目7番9号
TEL 072(963)0381(代表) FAX 072(964)5502

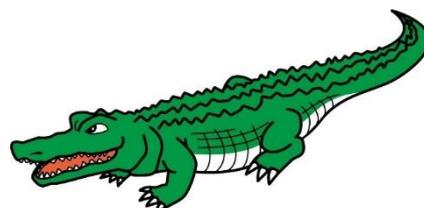
水走工場 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目14番24号
TEL 072(964)1078 FAX 072(964)1079

UI工場 〒578-0921 大阪府東大阪市水走4丁目2番6号
TEL 072(967)3966

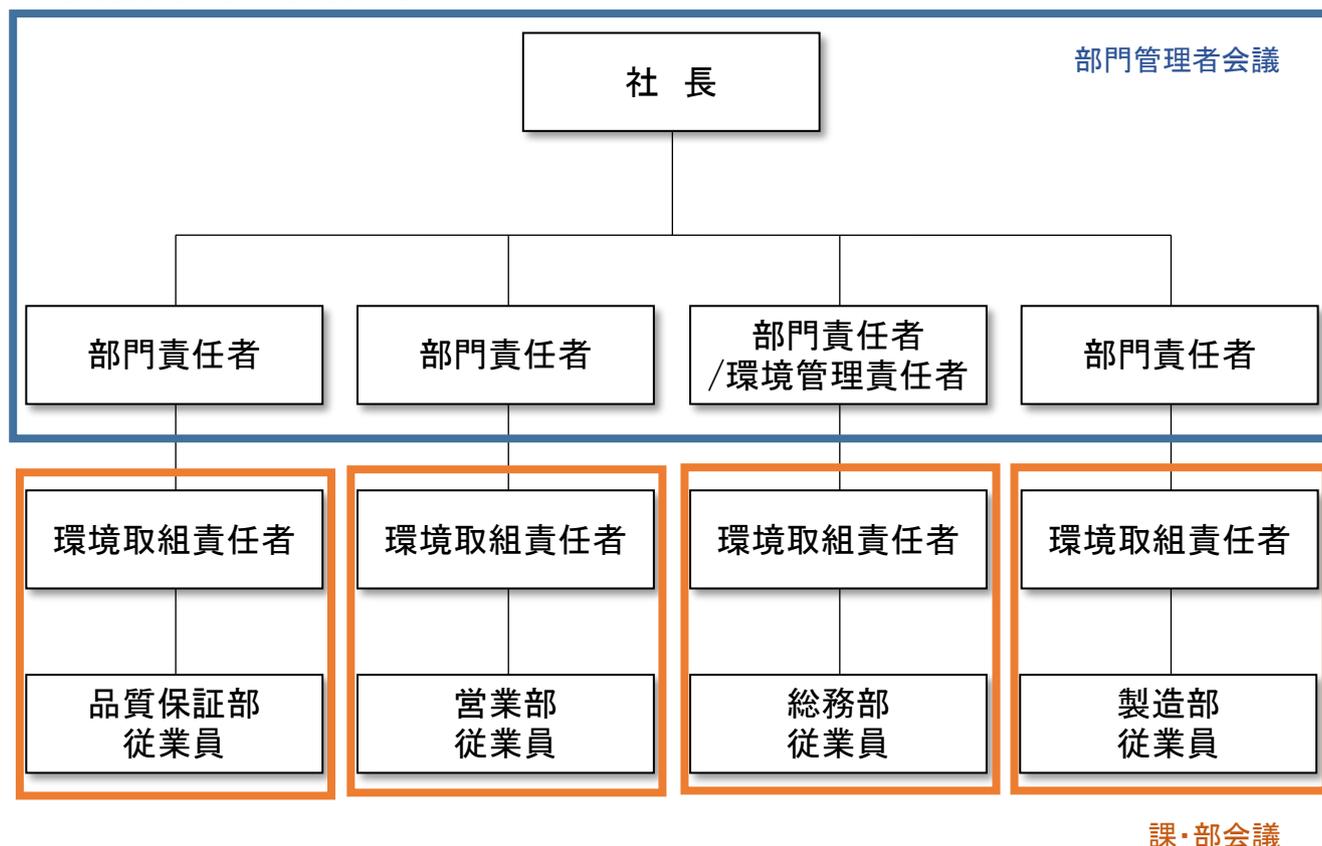
資本金: 78,940,000円

創業: 昭和20年10月

設立: 昭和25年 8月



2. 実施体制の組織図



分掌(責任と権限)と会議体の役割

社 長	エコアクション21(以後EA21)取組(実行)の代表者であり、環境経営に関する方針(環境方針)を定め制約し、環境への取組の基本的方向を明示し、実施体制を構築する。環境への取組を適切に実行するための「代表者による全体の評価と見直し・指示」を行い、環境への取組に必要な資源を準備する。
環境管理責任者	EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築・運営し、その状況を社長に報告する。
部 門 責 任 者	社長の指示・報告・指導・教育により、担当する部門の従業員と一体になって環境への取組を実施する責任者である。
環境取組責任者	部門責任者の指示により部門従業員と一体となり、環境への取組を実施する責任者である。
従 業 員	環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚すること、決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動に参加すること。
部門管理者会議	EA21 方針を決定していき、また活動に対して評価を決定していく会議である。
課・部会議	各部門に於いて環境活動への取組について協議を行う会議である。

3. 経営理念・環境経営方針・環境経営目標

「経営理念」のもと、以下の環境経営方針・環境経営目標を定める。

－経営理念－

我々は日常の商売において、お客さまに対して常にニーズをとらまえ、より良い品質の商品の提供を通じて適正な利益の確保を行い、会社の充実をはかり、従業員の生活安定向上をめざし、地域社会への奉仕に努める。

株式会社 三和鋳螺製作所

－環境経営方針－

三和鋳螺製作所は、「最適な生産・最適な消費・最小の廃棄」の持続可能な循環型社会の構築に向けて、省資源、省エネルギー、廃棄物の分別と削減、リサイクル等、環境に配慮した経営を基本に、設備の更新、協力工場との連携を通じて、製造・販売に取り組み、顧客から満足評価される環境品質の実現のため、社員全員の知恵を結集し、生産性や経済性を向上させ、活動を社会に報告することで信頼される企業を目指します。

1. 事業活動における環境への負荷の軽減を計るため、環境保全活動の目標を設定し、技術的、経済的に可能な範囲において全社員で継続的改善に取り組む。
2. 環境に関わる法的規制及び業界の指針を遵守し、地域社会との調和に努める。
3. 省資源・省エネルギーの実行を重点的に取り組む。
4. 化学物質を適正管理し、環境保全の向上に努めます。

制定日 2005年5月1日

改訂日 2024年5月1日

－環境経営目標－

- 単年度目標** 環境負荷年間0.5%削減
- 長期目標** 5年後に環境負荷値を2.5%削減
※P8以降の取組みの推移(グラフ)から評価する。
- 単年度の判定基準** 過去3年の平均実績値を目標基準値と設定する。

項目	(73期)2022年度	(74期)2023年度
二酸化炭素排出量	基準に対して0.5%削減	基準に対して0.5%削減
廃棄物排出量	基準に対して0.5%削減	基準に対して0.5%削減
水使用量	基準に対して0.5%削減	基準に対して0.5%削減
環境に配慮した製造・販売	不適合、不適合品の軽減、資源再利用の推進(ポリ箱の使用等)	
含有化学物質(74期より実施)	SDS(安全データシート)で化学物質を管理する。可能であれば削減する。	

※目標の削減率は売上高を考慮した削減率とする。

2023年4月1日

(株)三和鋳螺製作所

代表取締役社長 榎本 宏志



4. 環境経営目標とその実績

(1) 過去の実績

環境項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
CO ₂ (総計)	kg-CO ₂	511,762	502,289	334,692
一般廃棄物	t	6.8	6.6	6.4
産業廃棄物(廃油)	ℓ	4,400	4,300	5,200
水道使用量	m ³	926	930	901

(2) 2023年度の目標設定と実績(74期)

2024. 4. 20

		前期3年平均値		2023年度(74期)		削減率 (%)	2023 判定
		単位(円)	※実績 (基準)	目標 (-0.5%)	実績		
環境 負 荷 項 目	購入電力	kg-CO ₂	468,434	————	313,141	-----	-----
	※売上高当たり	kg/億	20,061	19,961	11,513	43	○
	化石燃料(ガソリン・軽油)	kg-CO ₂	21,706	————	21,551	-----	-----
	※売上高当たり	kg/億	925	920	852	14.7	○
	CO ₂ (総計)	kg-CO ₂	490,140	————	334,692	-----	-----
	※売上高当たり	kg/億	20,991	20,856	19,265	10.8	○
	一般廃棄物	t	6.9	————	5.2	-----	-----
	※売上高当たり	t/億	0.3	0.3	0.19	36.7	○
	産業廃棄物(廃油)	ℓ	3,800	————	5,200	-----	-----
	※売上高当たり	ℓ/億	162.7	161.9	191.2	-17	×
	水道使用量	m ³	930	————	901	-----	-----
	※売上高当たり	m ³ /億	40	39.6	33	17	○
	環境配慮の取組(鉄くず)	t	108.8	————	93.5	-----	-----
	※売上高当たり	t/億	4.7	4.6	3.44	26	○
売上高	億	23.35	————	27.20			

製品及びサービスに関する項目		
環境に配慮した製造・販売	資源の有効利用	不良品の軽減等の推進
	副資材のリサイクル	
化学物質の管理	SDS(安全データシート)で化学物質を管理する。	

※購入電力の調整後排出係数:0.311kg-CO₂/kwh:関西電力:2015年度実績

※化石燃料(マシン油は除く)

※実績(基準)直近3年間の平均値-0.5%減数

(3) 環境活動の取り組み計画と評価

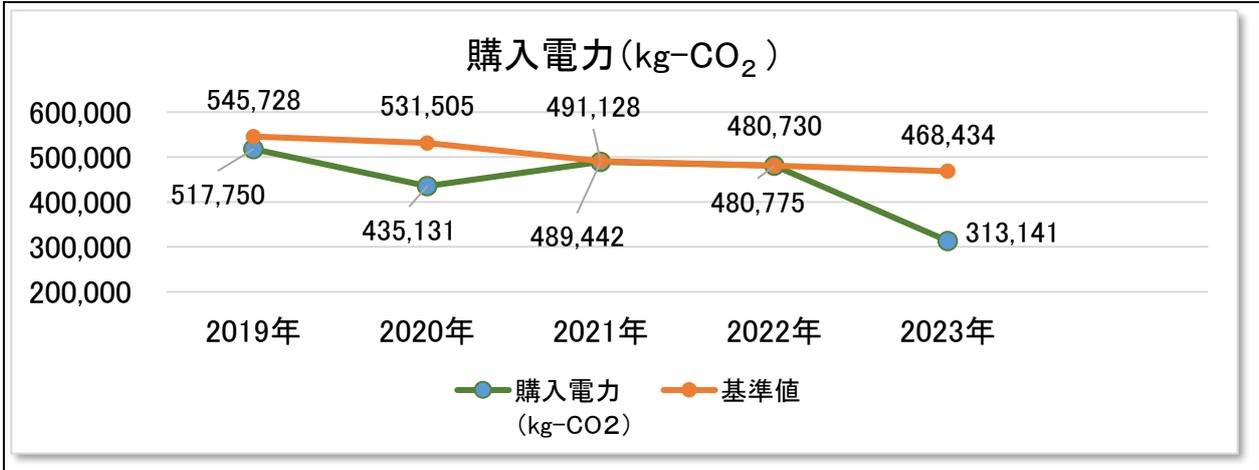
2023年度			評 価		取組部門
SDGs	項 目	EA21への取り組み計画	本社工場	水走UI	
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに  13. 気象変動に具体的な対策を 	使用電気の削減 (CO ₂ の削減)	パソコンのモニタを一定時間で切れるようにしている。	○	○	(全社対象) 本社・水走工場・UI工場
		複合機選定の際は、「環境への配慮」を考慮したものを購入する。	○	○	
		使用していないコンベアは止める。休憩の時など電気を消す。	○	○	
		配電盤の不使用スイッチを切る。	○	○	
		デマンドによる使用電力監視(契約電力)	△	○	
		タイマーで早く完了しているものは全てブレーカーで電源を切って帰る。	△	○	
		不使用な機械の電源をブレーカーで切る。	△	○	
		使用していない場所は消灯。	○	○	
	出入り口にカーテンを付け、温度の急激な変化を抑制する。	○	○		
	化石燃料 (CO ₂ の削減)	アイドリングストップ等、燃料節約をする。	○	○	
プランを立て、効率よく自動車を使う。		○	○		
可能な限りまとめて、リフト作業の使用頻度を減らせる。		○	○		
12. つくる責任 つかう責任 	一般廃棄物の軽減	工具メーカーにも、再利用を考慮した梱包の協力依頼している。	○	△	
		裏紙専用BOX設置している。	○	△	
		裏紙をメモとして使用。	○	○	
	産業廃棄物の軽減	廃油前の上澄み油を再利用している。	△	○	
		古ポリ容器を洗浄し、リサイクル使用。	○	○	
	環境に配慮した製造・販売	生産効率の良い機械の導入。	○	○	
不良品(材料、不良品、段取り品等)の軽減		○	△		
通い箱(ポリ箱)の推進。		○	○		
6. 安全な水とトイレを世界中に 	水資源の節約	植木に使用する水は雨水を溜めて使用している。	△	○	
		水栓の調整をしている。	○	○	
		手洗い(水使用)時にこまめに蛇口を閉めて節水している。	○	○	

(4) 取組結果の評価、次年度の取組内容

電力によるCO₂排出量の削減

2023年度は目標値より購入量が削減でき、CO₂削減に努めることができた。

(電力会社変更:電力事業者別排出係数 0.499→0.311)

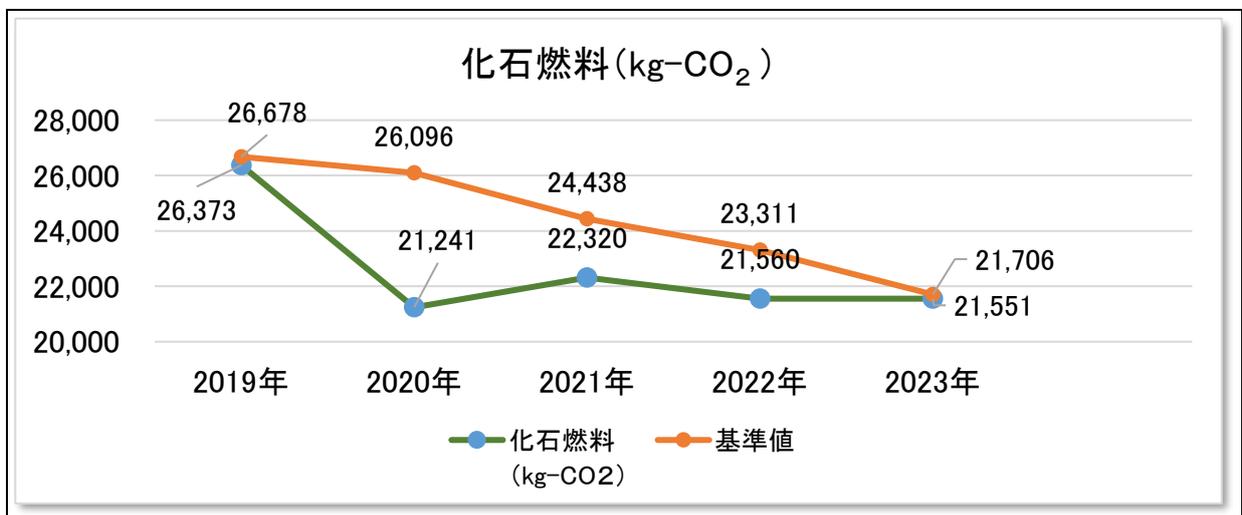


◎次年度への取組

- ・再生可能エネルギーを利用した発電方法を模索し、導入を検討する。
- ・センサー付き自動消灯スイッチを設置、必要以外の照明を消灯する。
- ・社内全体の使用電力の節電に努める。

化石燃料によるCO₂排出量の削減

2023年度は基準値(過去3年平均値)より、売上高当たりCO₂排出量を14.7%も削減することができた。

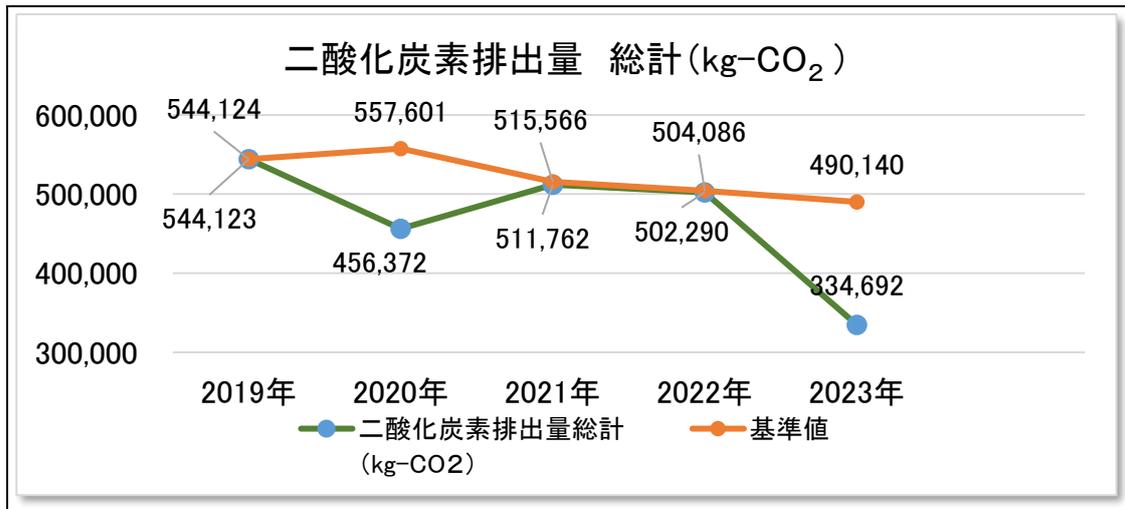


◎継続的次年度への取組

車を使用しての顧客訪問等を必要最小限にとどめ、Web打合せを増やしていく。
計画を立て自動車での移動を効率化する。

二酸化炭素排出量(総計)の削減

2023年度は基準値(過去3年平均値)より二酸化炭素排出量において、売上高当たり10.8%削減できた。



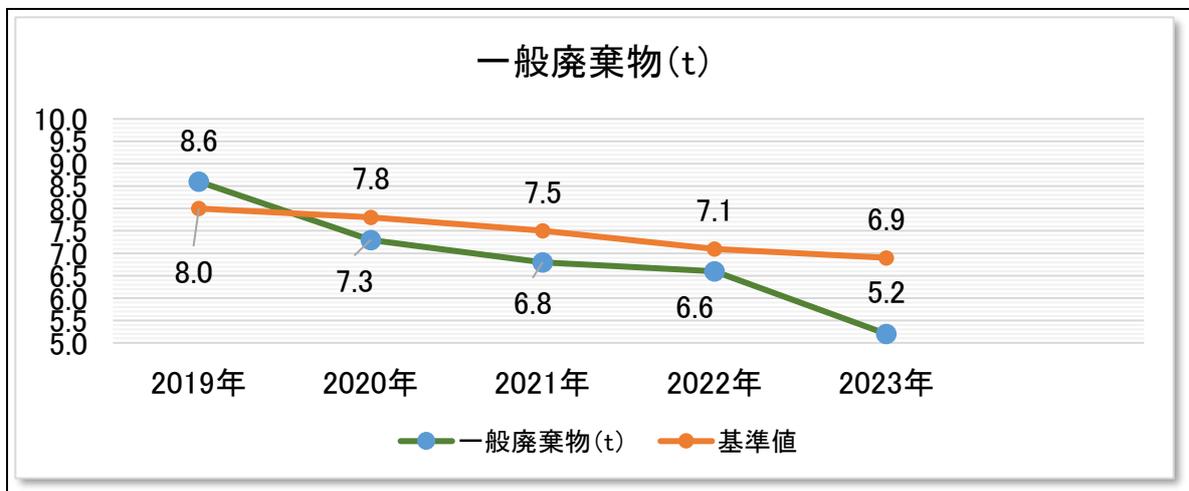
◎継続的次年度への取組

本社及び工場における空調の調整を継続する。

ラック倉庫の大型出入口にカーテンを設置。開閉時の室内温度安定化をする。

一般廃棄物の軽減

2023年度は基準値(過去3年平均値)に対し、実績値では7.9%削減され、売上高当たりも16.4%の削減になった。傾向として減少している。



◎継続的次年度への取組

軍手、ウェスの廃棄量の軽減をしていく。

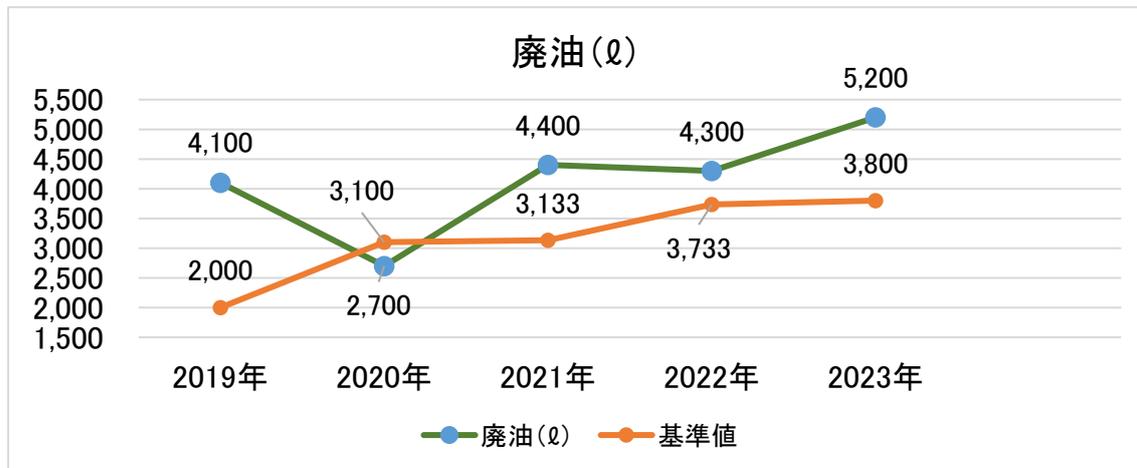
荷物発送時の梱包をポリ箱に変更する推進をしていく。(要顧客相談)

リサイクルできる廃棄物は業者回収を依頼しリサイクルする。

5S活動を通じ、不要な物を買わない施策をしていく。

産業廃棄物の軽減

2023年度は基準値(過去3年平均値)に対して、売上当たり17.0%増加(廃油)した。要因として、設備のメンテナンスによる油交換の時期が重なったことにより増加した。尚、廃油はリサイクルされている。



◎

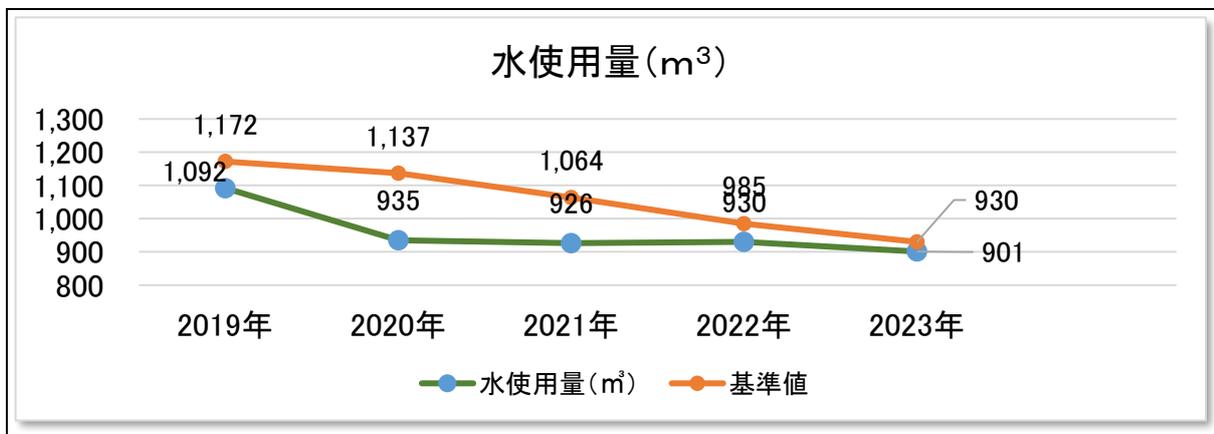
継続的次年度への取組

機械のオーバーホール等、計画的におこなう。

製造機械の点検・オイルフィルターの新設の改善をおこなう。

水資源の節約

2023年度は売上当たり、17%の削減となった。



◎ 継続的次年度への取組

節水を働きかけて必要以上に水を流さないこと等、節水の心掛けで水道使用量の削減をする。

植木への水やりは雨水・冷房時に出る水を貯水して活用している。

環境に配慮した製造・販売

2023年度もダンボール箱からポリ箱への転換等を継続的にこなっている。

顧客要求があれば、都度対応が現実的であり、要求があれば打合せ、対応している。

化学物質の管理

SDS(安全データシート)で化学物質を管理する。

代替品があれば、対象化学物質を削減する。

5. 環境関連法規等の遵守状況

適用法令	適用内容	遵守状況	コメント
騒音規制法	コンプレッサーの届出 騒音規制値(第2および第4区域)	遵守	周辺地域に配慮し、苦情などはありません。
振動規制法	同上 振動規制値(第1および第2区域)	遵守	同上
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般及び産業廃棄物の排出	遵守	分別保管と表示、委託契約書及びマニフェスト管理を確認し、それぞれ適正であった。
大阪府条例 流入車規制(トラック・バスなどの運行に関する規制)	対象自動車等に対しては当該基準の遵守を義務付け、窒素酸化物及び粒子状物質の排出量の削減を図っている。	遵守	従来の適合等標章は不要となった。
フロン排出抑制法	業務用エアコン・コンプレッサー 「簡易点検及び定期点検」	遵守	業務用空調の簡易点検(7.5kW以上は設置業者点検) エアコンからのフロン異常なし。
消防法	危険物貯蔵庫 (油、灯油、ガソリン)	遵守	設置届出等遵守

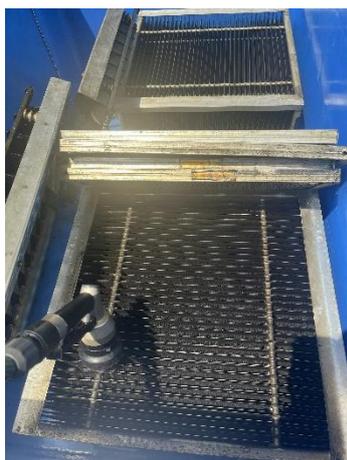
環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、過去3年間関係当局よりの違反、訴訟等の指摘、外部からの苦情についてもありません。

6. 当社に於けるEA21関連活動について

(1) 5S活動

Before



After



機械のオイルミスト排気口が油で汚れていたため、清掃致しました。

Before



After



移動ラックのモノを整理、整頓を行いました。
類似物が近くにあることで、ある、なしが直ぐに分かるようになりました。



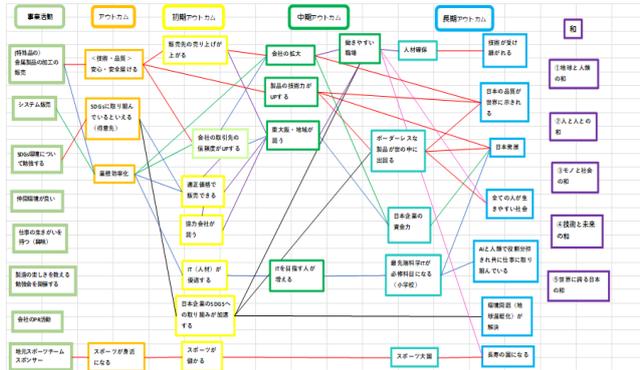
置き場を示すポップを貼ることにしました。
以前までは使用していなくても、ない、という状況が生まれ、効率が悪くなっていましたが、使用中はない、使用していない時はそこにある、と分かり、
効率が高まりました。

5Sを通し、作業効率の改善、モノを大切に扱うなどの
基本的な考えを養いました。

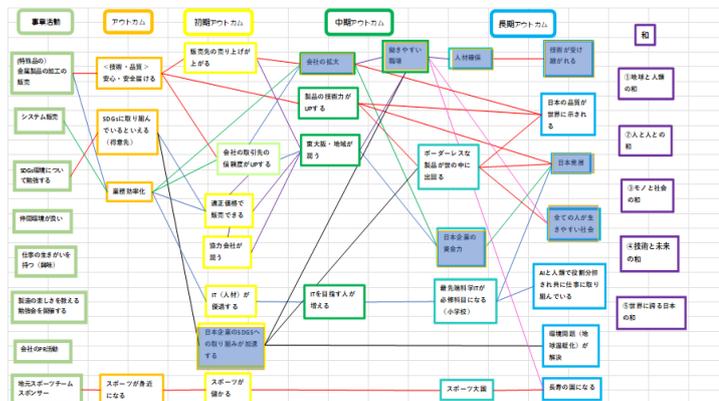
(2) SDGs 勉強会

社内に講師を呼び、SDGs 活動をするべく、勉強会を実施しました。

③ 働きがいも経済成長も



④ 質の高い教育をみんなに



社業に関連する内容で、どう SDGs に結び付くのかを学びました。

7. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

2024年4月26日

新型コロナウイルスの感染も落ち着きを見せ、コロナ前の活況に戻ろうとするが戻りきれない。ゼロゼロ融資の返済が始まり、廃業を余儀なくされる企業が増えている現状で、これからの経営状況も必然的に変化していく。

環境負荷軽減活動からすれば、SDGs の普及により様々な環境に対する取り組みが加速されている現状となっている。

また DX 化の波もあり、紙ベースの書類のやり取りに関してはデジタル化を推進していることもあり、紙資源は減少している。

必要資源に関し、常に省エネを意識し、環境負荷削減に努めていきます。

更に全社員が責任感を持ち、参画するように実施体制を改める。そして、全員一丸となり、

SDGs にも積極的に取り組んでいく。

項目	見直しの有無				事由
環境経営方針	変更あり		変更無し	○	
環境経営目標・計画	変更あり		変更無し	○	
実施体制	変更あり		変更無し	○	